

# 非常時に大きな備え

## NPO法人が防災用品寄付



寄贈された防災用品と布施市長（左）、ワールド・ビジョン・ジャパンの担当者。防災用品は市内47施設に配置されました。

東京を拠点に東日本大震災の被災地支援を行っているNPO法人ワールド・ビジョン・ジャパンから市に対して、防災倉庫や投光機などの防災用品が寄贈されました。

寄贈された防災用品は、防災倉庫47棟と、その中に収納するハロゲン投光機や発電機、ガソリン携行缶など564点

で、約3千万円相当になりました。市内の小・中学校など47カ所に配置されました。

7月6日に市役所を訪れたワールド・ビジョン・ジャパンの木内真理子部長は布施孝尚市長に「私たちの役割は被災地と支援者をつなぐこと。今回、登米市と良いつながりができました」と話しました。

# 電話帳がもつと便利に

## タウンページに市の情報

NTTの「タウンページ&ハローページ」に登米市の行政、地域情報などの「くらしの便利帳」が掲載された合冊版が完成し、8月1日に市役所で受納式が行われました。「くらしの便利帳」はタウンページの巻頭部分72ページ。登米市のイベント案内や市役所での届出、証明の手続き、公共施設の電話番号などを紹介しています。



合冊版を手にする布施市長（左）とNTTタウンページ東北営業本部の若清水信行本部長

# 大学生が学習支援

## 南方中で夏季学習会

南方中学校（吉野幸信校長、生徒255人）が夏休みに実施した夏季学習会で、宮城教育大と京都教育大の学生ボランティアが学習支援を行いました。これは、同校が宮城教育大教育復興支援センターと連携して行ったものです。

8月6日から10日まで、南方公民館などを会場に行った学年ごとの夏季学習会には、12人の学生ボランティアが参加。生徒が各自持ち寄った課題に対し、丁寧に指導していました。京都教育大4年の小林愛奈さんは「生徒たちと年が近いので聞きやすいと思います。みんな、あいさつが元気でびっくりしました」と笑顔で話していました。



学生ボランティアから学習指導を受ける生徒たち

# 親子で力を合わせ

## もくもく親子工作教室



もくもく大賞を受賞した阿部さん親子

もくもく親子工作教室が7月21日から8月5日までの土曜と日曜日に、津山町のもくもくランドで開催され、市内

外から多くの親子連れが参加しました。この教室は、津山町特産の杉の間伐材を使用し、親子で工作に親しんでもらおうと、毎年開催されています。参加者は、親子でアイデアを出し合い、矢羽板や丸棒を使って、思い思いの作品を作っていました。出来上がった51作品は、コンクールに出品され、最高賞のもくもく大賞には、石巻市の阿部元一さん・創馬くんの「ネコのリンゴ園」が選ばれました。



基調講演を行った新田代表

市内企業への理解を深めてもらい、優秀な人材の市内企業への就職促進と学生の就職支援や若者の定住を目的とした「登米市企業情報ガイダンス」が7月25日、登米総合体育館で行われました。

布施市長が参加者に向け登米市の魅力や若者に期待することなどを述べたあと、有限会社プランニング開の新田新一郎代表取締役が「これから社会に求められるもの」と題し記念講演を行いました。市内企業との情報交換には35社のブースが設けられ、主に市内の高校3年生など約250人が、それぞれ各企業の担当者から会社の概要などを熱心に聞いていました。

# ようこそ登米市へ

## 新たにALITが着任

新しく登米市に着任されたALIT（外国語指導助手）のハインゼル・クリステン先生（アメリカアリゾナ州）、ベジマ・ライアン先生（アメリカミシガン州）、アピセラ・ジョセフ先生（アメリカカリフォルニア州）が8月15日、市役所を訪れ、布施市長に表敬訪問しました。

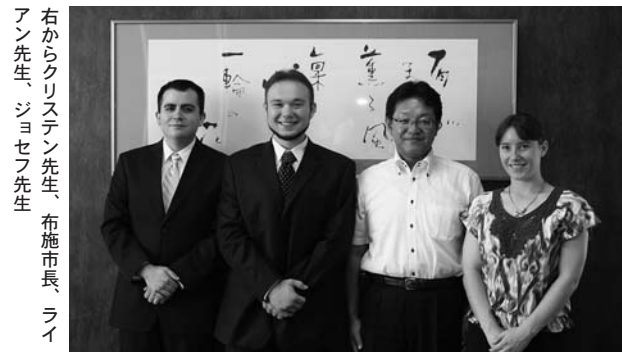
布施市長は「一日も早く地域に馴染んでいただき、学校だけではなく、地域の行事などにも積極的に参加してください」と歓迎のあいさつを述べました。3人の先生方には、主に市内の小中学校で子どもたちに英語の学習などを指導していただきます。

# 市内企業への就職を促進

## 市企業情報ガイダンス



企業担当者の説明を、熱心に聞く参加者



右からクリステン先生、布施市長、ライアン先生、ジョセフ先生